

## 横瀬古墳(曾於郡大崎町)

左手が後円部、右手は前方部/西側から見たところ

 [video](#)



後円部の手前に説明板と駐車場があった

[\[動画\] video](#)



「日本最南端の古墳群 横瀬古墳」と刻まれた石碑



横瀬古墳の他、唐人古墳群・塚崎古墳群などが展開している



砂丘の上に、5世紀半ばに築造された前方後円墳/二重の周濠が巡る/主体部は竪穴式石室

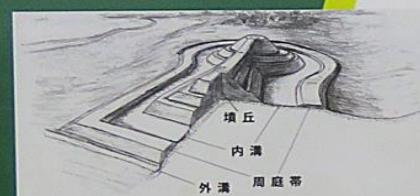
# 日本最南端の古墳群 横瀬古墳

Ancient Kofun at the southernmost tip of Japan

## Yokose kofun



【航空写真(西から)】



### 見どころ(ここがすごいぞ!) Attractions (Why Kofun is special)

- ①大パノラマの古墳で写真を撮ろう!
- ②頂上からの景色を楽しもう!これは石室?
- ③古墳の周りに何かある?見えたならラッキーかも!
- ④古墳の森を探検してみよう!

- ①Take a great panoramic picture with Kofun in the background!
- ②Enjoy the landscape viewed from the top! Can you see the stone burial chamber?
- ③If you look carefully enough, you will discover something quite surprising.
- ④Explore the forest surrounding the Kofun!

横瀬古墳は、1,550年から1,600年前に築造された前方後円墳です。墳丘の長さは推定137mで、県内では東串良町の唐仁大塚古墳について2番目の規模です。横瀬古墳は南北に延びる砂丘の上に造られています。

現在では完全に埋まっていますが、墳丘の周囲に濠(ほり)が二重に掘られています。明治35年に盗掘に遭っています。石室内は朱色(しゅいろ)に塗られていて、刀剣類、甲冑(かっちゅう)、勾玉(まがたま)等を発見したという盗掘者の証言があります。かつてはたくさんの埴輪の欠片(かけら)が外に散らばっていたそうです。

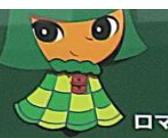
お問い合わせ

おおさき観光案内所 ☎099-477-2400



English





# 日本最南端の古墳群

Ancient Kofun at the southernmost tip of Japan

# 横瀬古墳

Yokose kofun



English



【周濠クロップマーク(植生の違い)】



【周濠ソイルマーク(土壌の違い)】



【測量平面断面図】



【文政7年の周辺地形図】

文政7年(1824年)の江戸時代に編纂された『大崎名勝誌』に、横瀬古墳の様子が記されています。内容「山の上に大きな石棺があります。年号や月日、誰の墓は記されておらず、分かりません、古い焼き物や瓦類が今も崩れることがあります」とあり、これが現存する文献の中で最も古い横瀬古墳の記述です。また「古い焼き物や瓦類」という記述は、墳丘に埴輪や土師器・須恵器が散在していたことがうかがえ、この頃から石室の蓋石が露出していたことがわかります。

横瀬古墳の発掘調査は、昭和52・53年に鹿児島県教育委員会、平成22・23年に大崎町教育委員会の計2回実施しています。いずれも墳丘ではなく周濠の確認を行うための調査です。この発掘調査により、大隅地域の古墳群で初めての発見例となる二重周濠であったことや、周濠の形状が同時期に築造されているヤマト政権の古墳に酷似していることがわかりました。また、周濠から須恵器片が出土している箇所があり、何かしらの儀式を行った場所の可能性があります。築造時期は、出土した遺物から、5世紀半ばまでに築造されていたと考えられています。

横瀬古墳から北側に位置する台地には神領古墳群があります。この古墳群のうち、神領10号墳から盾持人埴輪が出土しており、神領10号墳の築造時期が、横瀬古墳と同時期にあたるため、横瀬古墳にも形象埴輪が存在していたと思われます。

## お問い合わせ

大崎町役場 社会教育課

☎ 099-476-1111(代表)

大崎町中央公民館郷土資料展示室



後円部を北側から見たところ/右手の墳丘裾に説明板が立っているのが見える

 [video](#)



国指定史跡

# 横瀬古墳



墳長	前方部 高さ	後円部 高さ	内溝 幅	内溝 深さ	外溝 幅	外溝 深さ	周庭帯 幅
約 140 m	8.45 m	9.12 m	11~18 m	約 1 m	3~4 m	約 1m	15 ~ 20 m
ただし、 指定範囲 は 128 m	『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書』29 (S 59) の測量図より						平成 22・23 年度の大崎町教育 委員会による発掘調査結果

古墳時代中期（5世紀半ば）に築造された大型前方後円墳。

鹿児島県内では、東串良町の唐仁大塚古墳に次いで 2 番目の規模です。横瀬古墳の被葬者が活躍していた 5 世紀半ばに限っては、九州最大で西日本屈指の前方後円墳に位置づけられています。

明治 35 年に竪穴式石室の一部分が盗掘の被害に遭った際、石室内は朱塗であり、腐食した直刀・勾玉・甲冑などがあったことが伝えられています。

昭和 52・53 年の鹿児島県教育委員会が行った発掘調査で周溝の存在が明らかになり、さらに平成 22・23 年に大崎町教育委員会が行った発掘調査で周溝の外側を廻る外溝が確認され、二重周溝（内溝と外溝）を備えた古墳であることが分かりました。古墳及び周溝の発掘調査で採取された遺物として、土師器の甕形土器片、大阪府堺市南部一帯に広がる陶邑窯産須恵器、円筒埴輪、形象埴輪などがあります。

ヤマト政権と深いつながりを持っており、大陸～南西諸島～近畿地方を結ぶ広域交流の拠点を掌握していた西日本を代表する首長の墓と推測されています。



墳丘から採取された円筒埴輪の一部。  
〔写真左点は大崎町教育委員会所蔵、右点は鹿児島県歴史資料センター所蔵〕



南九州では、台地の縁辺部に立地する古墳が多い中、横瀬古墳は低地にある砂丘帯を利用して造られています。

古墳の南北は砂丘が連なり、東西は緩やかに低く傾斜しています。

外溝は古墳の領域とその外側を区画するためのもので、砂丘が連なる墳丘の南側・北側にのみ造られています。東側・西側は自然の湿地を利用して古墳の領域を区画していると考えられます。

大崎町教育委員会

墳丘裾に立つ「史蹟 横瀬古墳」と刻まれた標石

 [video](#)



後円部の墳頂に登って前方部方向を見たところ



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



同じく、後ろを見たところ/先程の駐車場が見える

 [video](#)



後円部墳頂から括れ部及び前方部を見たところ



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



括れ部で前方部を見たところ

 video



振り返って後円部を見たところ



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



ここが前方部

 video



前方部の墳頂で後円部方向を見たところ



振り返って、前方部の墳頂から斜面の辺りを見たところ/一部壅んでいる部分が見える



その窪んだ部分には小祠があった

 video



この窪んだ部分は、前方に見える小祠への参道として墳丘が削られた結果のようだ

 [video](#)



前方部を後ろから見たところ

 [video](#)



その右手で、前方部から後円部方向を見たところ

[\[動画\] video](#)



同じく左手で、前方部から後円部方向を見たところ



西側から括れ部を見たところ

 [video](#)



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



さて、ここは大崎町中央公民館



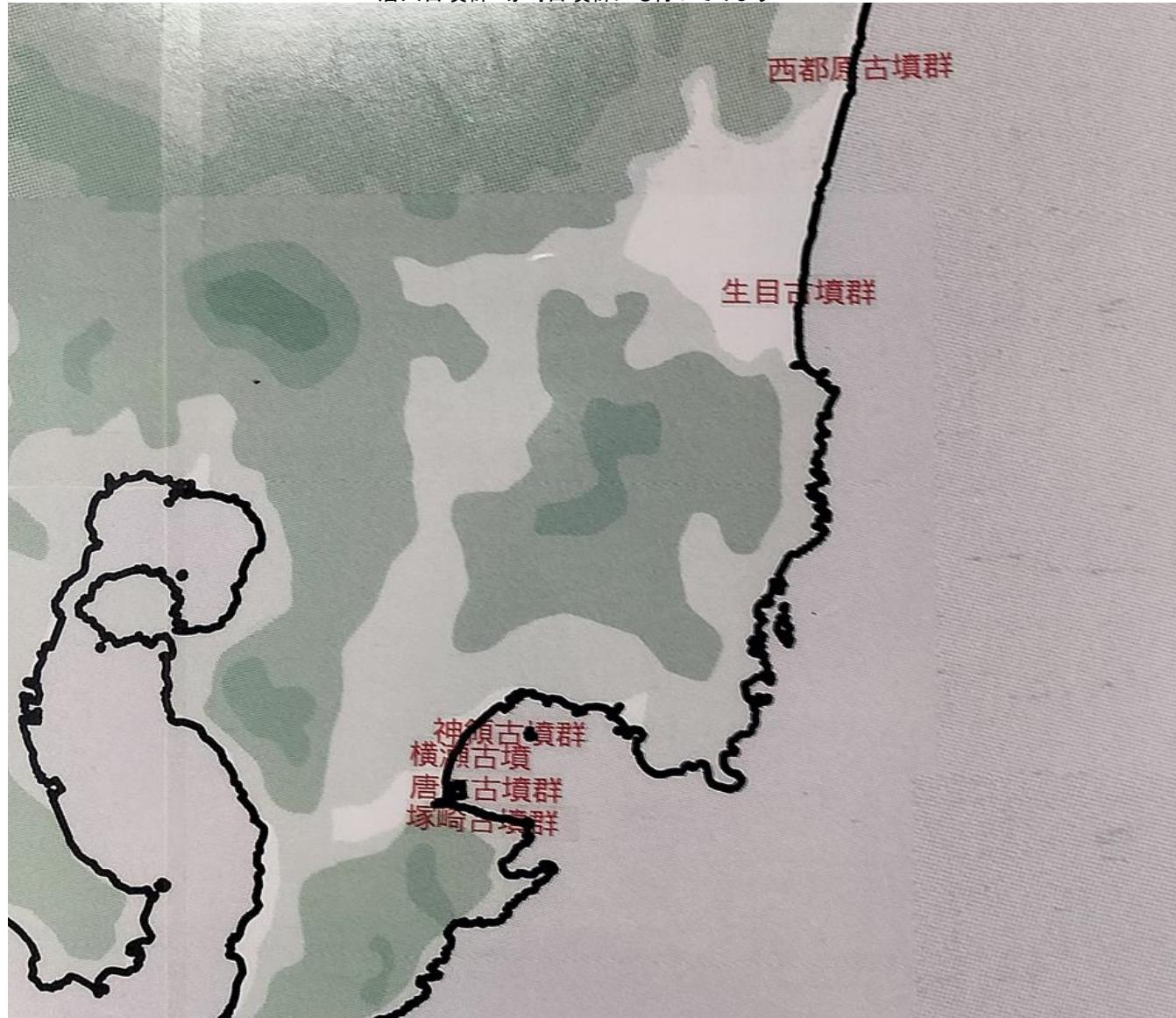
そこに郷土資料展示室があった



横瀬古墳やこの地域の考古資料が展示されていた



唐人古墳群・塚崎古墳群にも行ってみよう！



この地域では唐人大塚古墳が最大の前方後円墳のようだ

